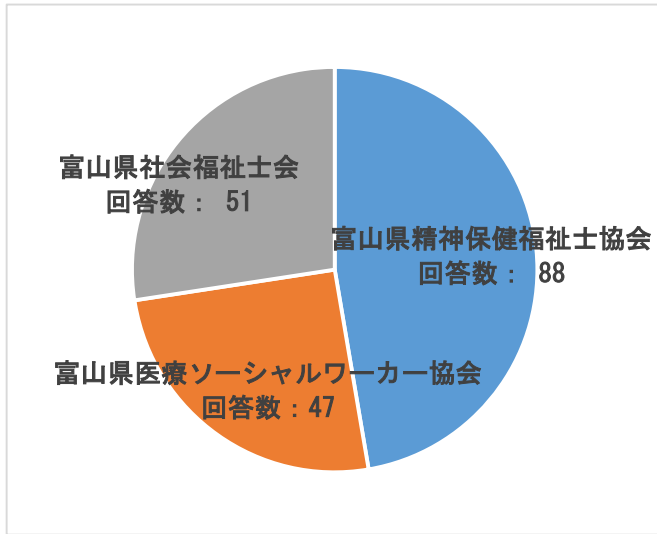
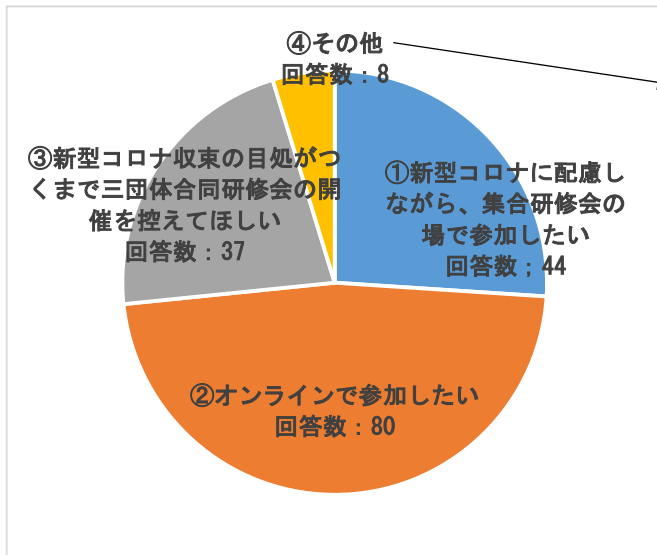


## 三団体合同研修会アンケート結果

### 1 回答者の内訳（全186回答）＊複数所属者延べ数含む

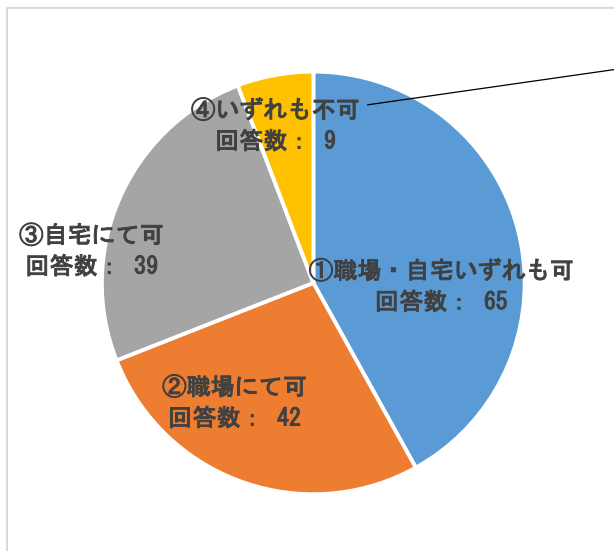


### 2 来年度以降、三団体合同研修会の開催について



④その他の記載内容	
・新型コロナウイルス症の感染状況を確認しつつ、オンライン研修から集合研修に移行できればと考える。	
・オンラインも集合での参加も選べるような形があると良い。	
・テーマによるが、オンデマンド配信で受講する選択肢があれば良い。	
・ハイブリッド型で開催してほしい。	
・集合とオンラインのハイブリッド型してほしい。	
・関心はあるが内容が分からず参加意向が判断できない。	
・参加が難しい環境。	

### 3 オンライン研修の受講環境について



④いずれも不可のうち	
・ソフト(ZOOM等)が使えない	2
・Wi-Fi等の通信環境がない	2

# 三団体合同研修で取り上げてほしい内容について

■ 精神保健福祉士協会 ■ 医療ソーシャルワーカー協会 ■ 社会福祉士会

1. ソーシャルワーカーに共通する基本姿勢, 倫理

2. ソーシャルワーカーとしての技術

- ・ アセスメント3名
- ・ 記録の仕方
- ・ 患者様や家族との関係づくり
- ・ スーパービジョン
- ・ 初回アセスメントのスキルアップ

3. 高齢者福祉

4. 障害者福祉

5. 児童福祉

6. 地域福祉

7. 権利擁護

8. 成年後見

9. 虐待防止 (児童、障害、高齢)

10. 生活困窮者支援

11. 滞日外国人支援

12. 司法福祉

13. 更生保護

14. 認知症

15. 精神障害

16. 高次脳機能障害

17. 発達障害

18. 依存性

19. スクールソーシャルワーク

20. ピア活動

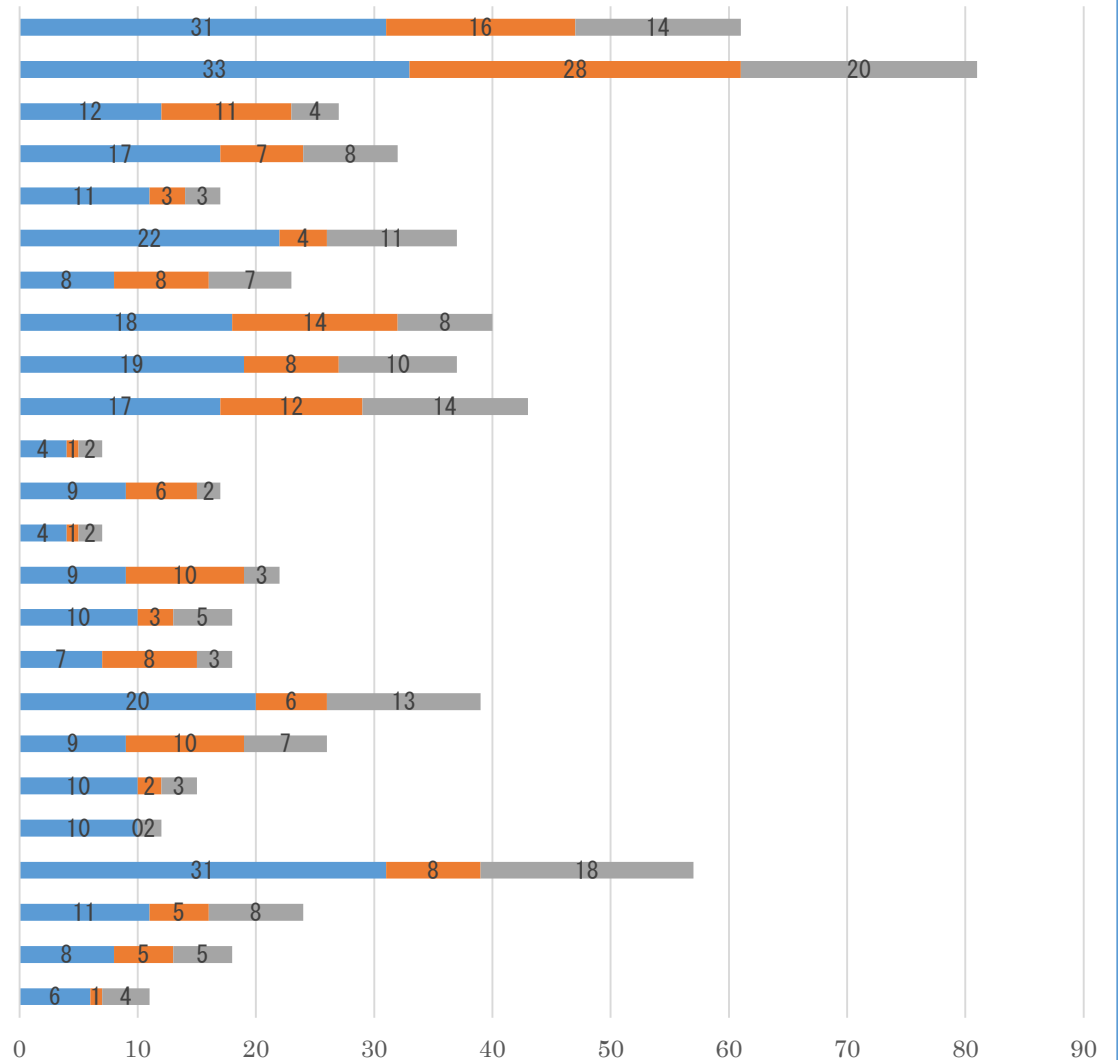
21. 家族支援

22. 災害時支援

23. 感染症対策

24. その他

- ・ 親なき後の支援、体制の整え方
- ・ 高齢者、障害者、児童など  
包括的ケアとして  
地域ネットワークについて
- ・ 三団体の役割分担、連携  
(それが学べる機会など)
- ・ 医療と福祉のスムーズな連携について  
(高齢者、障害者、児童、困難ケース等)
- ・ ひきこもり支援
- ・ 就労支援
- ・ 社会調査
- ・ HSP



#### Q4 自由記載

①今後の三団体研修に求めることについてお聞かせください
・児童、三障害、高齢分野等 ライフステージによって利用する制度が移行する際の連携について学びたい
・三団体に共通する課題、今知っておくべき情報についての研修があればいいです。
・グループワークや質疑応答は集合形式での研修の方がやりやすいのでは？と考えます。
・わかりやすさと専門性
・名簿も配られず、SWとしての共通言語が通じるのか確認したい。
・つながりの可視化
・zoomは使えないのですが、講義の部分だけを後から視聴できると助かります。
・コロナ禍に起きている問題や事象について、話が聞きたいです。
・参加人数の枠、もう少し広げられるとよいです。
・何か開催はしてほしいが、集まるのは避けて頂きたいです。
・全国の状況、情報が欲しいです。参考にしたいため。
・研修の機会を増やして欲しい。
・定期的な研修の開催があれば有り難いです。
・感染対策を十分に行った上での開催。
・今後福祉は、横断的な取組を一層推進していく必要があると言われていています。国の大きな方向性を共通認識した上で、各団体の機能が発揮できるような研修を望みます。
・ソーシャルワーカーとしての専門的技術等の研修を充実して欲しい
・コロナ禍だがなんとか集合研修を希望
・オンラインのグループワーク
・多機関との連携、情報共有、家族への支援の必要性があり、事例検討研修を受講希望
・オンライン研修のフル活用を希望。
・団体としてのソーシャルアクションを具体的に示していただきたい。
・他県にはあまりない研修なので続行していただきたい。
・ソーシャルワーカーの基本的な視点、倫理に関する研修、比較的関れるワーカーが少ない分野の研修など
・その年の医療福祉業界の大きな動き、ワーカーとして広い視野がもてるようなもの、オンラインであれば普段聞くことができないような県外の講師の方などの研修でしょうか・・・
・コロナが及ぼしている業務への影響について情報交換したいです。
・スーパービジョンなど、絞ったテーマが良い。

・新型コロナに配慮した研修会の実施を開催してもらいたい。
・ICTについて知りたい。
・外部講師を招いての研修。
・幅広い分野の学びを得たい。
・様々な事例を通して具体的専門的な知識を身に着けたい。
・お互いの連携のあり方について。
・コロナ禍実践的なソーシャルワーク技術を知りたい。
・弁護士、司法書士、社会保険労務士等との連携
・他県にはあまりない研修なのでこれからも続けて欲しいと思います。
・ともに研修し、ともに交流を深めること、様々な情報交流できる場所
・合同開催することに意義があると思います。
・他分野の会員の方と顔が見える関係づくり、スムーズな連携の土台作り
・SWIに共通する話題を通じて、顔の見える関係をつくることなので、グループワークを取り入れ、ZOOMではなく対面で行うことに意義がある。
・それぞれの所属や立場が違って、同じソーシャルワーカーの基盤で働いていることを共有できる研修であるといいなと思います。
・いつも三団体研修は所属協会とは違った刺激があり、楽しみにしています。
・様々な分野についての知識を深めること
・所属を越えて会員が交流する機会は重要だと思います。
・普段なかなかお会いできない方や、お久しぶりの方とお会いできたり、交流できたりすることで、とても刺激を頂いております。
・今後もワーカー同士で交流できる場にして欲しい。
・他分野で活躍するソーシャルワーカーの活動や新たな視点に触れることのできる貴重な機会であり、厳しい状況の中ではあるが是非継続していただきたいです。
・コロナ禍で研修会の企画自体が難しいと思いますが、様々な形での研修会を企画してほしいです。
・会員同士の交流が一番です。
・色々な立場での意見交換。
・会員同士の交流が一番。
・会員同士の交流も図れるような会だったらいいなと思います。
・顔の見える関係。情報交換。
・三団体間の交流、全体のソーシャルワークの質の向上。
・三団体が集まる機会は早々ないと思うので、お互いに情報交換等ができれば良いと思います。

・他団体の方と共通テーマを通じて学び合える貴重な機会
・他団体のソーシャルワーカー会える数少ない機会のなのでワークショップ等で話し合いたい。
・横のつながりが広まると良い。

②新型コロナに関連して、ソーシャルワーカーとして取り組んでいる対策やその影響で苦慮していることなどお聞かせください。
・手指消毒、検温、訪問前の電話での聞き取り、換気等の徹底
・消毒の徹底やこまめな検温をして自身の体調管理には気をつけるようにしている他、関わる利用者さんについても体調を確認したり、県外への移動がないか等も確認するようにしている。
・トリアージ
・ZOOM等利用したスタッフ会議など開催するようになった。
・日々感染対策等の知識を取り入れていかなければならないこと。そのために医療寄りの発言、行動をしてしまう。
・訪問などあり、とにかく自身が感染しないよう気をつけています。病院なので、病棟に入る際に気を遣っています。
・多くの会合でZOOM導入しており、オンラインでのやりとりが増えているように思います。そのような動静に少しずつ慣れてきているような状況です。
・高齢の利用者さんも多いことから、お若い利用者さんと、使用する場所(作業や食事)をわけたりしている。検温2回と手指消毒、マスクの着用など、基本的なことを遵守できるように心がけている。(お声かけなど)が、うっかりお忘れになる方もいらっやして、悩ましい想いをしている。外出を控えること＝ストレス発散できないとなってしまう方もいらして、イライラが募り、対応で苦慮することも時々ある。
・外来通院者の日中活動の制限・新規利用の調整など関係機関と更に連絡を取り合っている。またそのような中で本人の情報だけが先走らないよう、支援を振り返る機会を多くしている。家族の解雇や求職活動の困難さなど家族全体を見つめた支援をしている。
・面会が制限されているため、家族が患者の状況を把握できず、退院支援がスムーズに進まない。家族が病院来院をためらい、面談を組みづらい。面談時にはマスク、ゴーグルを着用し、換気をしながら行なっている。
・LINEのビデオ通話を用いたオンライン面会。
・取組みとしては、職場に新型コロナを持ち込まない、持ち込ませないことに気をつけている。面談時にアイシールドの装着をする。県外の方との面談時や、大人数で集まり話し合いをするときには、陰圧室やなるべく広めの部屋で行うようにしている。 ・苦慮していることとしては、入院中の患者さんに家族さんが会えない状態で本人さんや家族さんと相談しながら退院後の生活の調整をすすめていく必要があること。
・面談での感染を予防するため、マスクとアイガードの装着は必須です。来談者にももちろんマスクを求めます。そのため、お互いの表情を読み取りづらかったり、最近では少なくなりましたが威圧感を感じると言われたこともあります。
・窓口業務がメインとなっているため、感染対策に気を使います。
・三密を回避するよう取り組んでいる。

<p>・面会制限のため家族に患者の状態理解をしてもらうことが言葉だけの説明では得にくく苦慮している。動画を利用するなどの工夫をして対応している。</p>
<p>・電話対応が増えました。</p>
<p>・ソーシャルワーカーとしての対策には至っておりませんが、標準予防策は徹底しております。特にアルコール消毒は公私問わず携帯するようにしています。新型コロナ対策で受け入れ制限(入所・通所・訪問とも)をすることで多く利用調整に苦慮することもあります。お互いに苦労しているんだなと思いながら対応を進めています。</p>
<p>・訪問時に感染対策のお願い。施設や病院での面会制限。</p>
<p>・患者さんと家族が面会できず、家族さんが本人の状況を掴めないまま、退院調整を進めています。そのため、なるべくイメージしやすいよう、文書にしたり状況報告の頻度を増やしています。</p>
<p>・感染対策として、患者さんやご家族と面談する際にはなるべく距離をとるように心掛けています。</p>
<p>・個人個人による感染防止対策の徹底の周知。</p>
<p>・面談を電話やメールにして、接触回数を減らしているがそれによって情報が得にくく、信頼関係の構築が難しい。また、本人と面会していないことで、具体的な退院のイメージがわからず退院支援も遅れてしまう。</p>
<p>・面談室に仕切りの設置、消毒の徹底、クライアントの検温37.5℃以上時は面談を中止等の制限が多い</p>
<p>・従来の面会を考え直し、必要時にのみ実施している。</p>
<p>・オンライン研修は会場への移動時間をカットできとても良いのでコロナ収束後も続けて欲しい。</p>
<p>・訪問時には感染予防に気を配りながら対応している。</p>
<p>・入院中、外出泊等が制限されている中での退院支援について苦慮しています。</p>
<p>・外出外泊や直接面接の制限により、入院されている方の退院支援が促進されにくくなっている印象があります。</p>
<p>・利用しているサービス(ヘルパーさんなど)やところ(デイケアなど)が急に休所になったときの対応。</p>
<p>・施設見学などコロナでできる時とできない時がある。その分、こまめに連絡相談している。オンラインでの関わりや研修が当たり前になってきていますが、当事者に通信費などさらなる負担を強いる点で心配です。</p>
<p>・面会など制限されたり、ご家族が心配で面会を控えるケースなどが、ご本人の様子を高等でお伝えするよう意識している。また、入居施設の利用者の方の行事や余暇の過ごし方について、かなり制限があり、楽しみをどのように確保するか苦慮している。</p>
<p>・当事者間の交流(行事など)をより活発に行いたいと考えているが、蜜を避けた企画・運営が難しい。</p>
<p>・感染対策のため、外出制限などがあり、長期入院者の地域移行がますます進みづらいこと。家族面談などを定期的実施して支援が途切れないようにしたいです。</p>
<p>・病院の方針により新型コロナ対策として面談時間の短縮が挙げられ、30分以内におさめなければならなくなったこと。</p>
<p>・感染予防のあめ本人宅訪問等の頻度が減少した。</p>
<p>・病院の感染対策に沿って対応しています。県外の患者家族との面談ができなかったり、関係機関が集まれるケア会議が開催できなかったりして対応に苦慮しています。</p>

<p>・面会や会議の開催など制限が多い。患者、家族、関係者の不安軽減について困難がある。</p>
<p>・外出プログラムなどができません。不自由さからデイケア利用者の不満が蓄積しています。</p>
<p>・対象者と常に距離を保たなければならず、活動には多くの制限があります。また、多人数と接する場に直にいけないのは、さらなる制限となっています。</p>
<p>・生活支援をしている中、全てのことについて対策、苦慮しています。(まずコロナ感染しないこと、コロナ時代だのご本人の生活ができるよう、ご本人とお話しています。)</p>
<p>・状況の変化に対応しきれていない。</p>
<p>・入院中の患者様の外出希望が叶えられず、本人さんのフラストレーションが少しずつ高まっているように感じる。</p>
<p>・感染予防のため入院者は外出が困難となり、社会復帰が困難となっています。また、オンライン化が遅れている点は課題です。</p>
<p>・コロナの為、外部の方と関わることをためらっております。(たとえ県内で感染者が少ないといえども)</p>
<p>・入院者の退院に向けての外出泊が思うようにできず、退院が思うように進まない時があった</p>
<p>・病状によってはマスクの常時着用など、毎日様子を見つつ注意しており、対応に困る。</p>
<p>・マスク、消毒など、距離を保った対応。その人に対して、意識が違う。</p>
<p>・面会禁止となり患者家族との信頼関係の構築に苦慮している。</p>
<p>・家族が県外の方だと転院出来ない。</p>
<p>・遠方の家族との面会が叶わず転院調整においての支援の関係性構築が難しいことから調整が遅れる。 転院時に家族(精神疾患あり)が面会可能な病院にこだわってなかなか転院調整が進まない等。</p>
<p>・面会制限のため家族に患者の状態理解をしてもらうことが言葉だけの説明では得にくく苦慮している。 動画を利用するなどの工夫をして対応している。</p>
<p>・休業や利用制限でサービス調整の頻度が増えたことで業務負担が増えた。</p>
<p>・患者や家族との面談に制約があり中々時間調整が大変である。サービス担当者会議が行えない。</p>
<p>・面会制限で患者も家族のコミュニケーションが取れない。</p>
<p>・面会制限があり、患者家族があえなくて辛い。</p>
<p>・家族が患者と面会できない為、本人の状況をイメージしにくい。外出、外泊出来ないため在宅の生活がイメージしにくい。</p>
<p>・家族との面談場面が減っていること。</p>
<p>・入院中の患者さんであれば家族と面会できず、患者さんが携帯電話を持っていないと会話もできない。 両者の意思を代弁し、必要であれば意思をすり合わせ、不安なく退院できるように努めている。</p>
<p>・一人暮らしの方には、県外家族が帰省時にデイサービス、訪問介護事業所等は10～14日程利用不可のため1年以上家族に会えない状況が続いており寂しい思いをされていて忍びない。</p>
<p>・訪問が困難となりクライアントがひきこもりがちになっている。</p>
<p>・放課後等のデイサービスを運営しており、マスク等について児童への指導に悩んでいる。</p>

・訪問が出来ない場合は電話対応しているが表情が見えないので限界を感じる。
・家庭訪問時にマスク着用せずに話されて困る。
・コロナ禍の訪問、面会にジレンマを感じている。
・政治・制度設計にソーシャルワーク専門職が少なく、重要性が理解されない。
・入院入所中の方と、面会できない状況で電話・web面会しているが施設のスタッフが同席しており本音で話しにくく限界を感じる
・入院中の方の支援をしているが、外泊・外出体験・施設見学・直接面会が出来ない為理解が深められず退院支援がはかどらない感覚がある。
・介護施設において、感染予防や感染者発生時対応の確認等、利用者の活動交流に制限があり何ができるのかと考え神経を使いながら毎日を過ごしている。
・直接面談が叶わず活動の様子が見えてこない。
・通所サービス利用時、コロナ感染を不安に感じている方の通所の仕方やサービス提供
・コロナの感染が心配、日中活動に自主的に制限をかけている。利用者が多い、利用したいのに外出が怖いという方もおられる。
・自分の振る舞いが患者様の不安を煽らないようにしている。
・入居者の行動の制限がある中で、より精神面に変化がないか気に向け、行事等も感染対策を行いながら楽しめるものを検討し実施している。
・マスクをして普通にしているも、相手利用者さんが、「怒ってる？」と一方的に感じていたり、コミュニケーションが難しくなったと感じる面もある。より言葉使いや声のトーンなどに配慮が必要なのではと考えている。
・新型コロナウイルス感染症への対応について、各医療機関や施設での工夫や課題等の情報共有の研修会があっても良いのではと思います。
・高齢者の相談支援に携わっています。コロナ予防や不安のため外出機会、友人や県外家族との交流が減少し、心身が弱りがちです。高齢の方には自ら意欲的に生活を変えるのが苦手な方も多く、このような中で地域の集まりの場の参加をスタッフや住民同士で誘ってもらおうと参加に繋がりやすいと思います。地域の繋がりを持っていただけるよう改めて支援しています。
・電話面談では表情、本人の意向がわからないので電話面談についての研修があればよい。

### ③その他

- ・コロナ禍の中で研修開催の新しい取り組みの方法を期待しています。
- ・いつもありがとうございます。
- ・三団体の調整いつもお疲れ様です。
- ・発達障害、知的障害、身体と高次脳等の複合的に障害を併せ持つ方もいて支援の難しさを痛感
- ・コロナ禍出の活動、配慮等お疲れ様です。